



2016年 降誕祭

姉妹の皆様、友人の皆様

いつくしみの特別聖年が終わり、聖なる扉が閉じられた今、主が与えて下さるいつくしみの賜物を頂くために心を開きなさいとクリスマスの物語は私たちを勇気づけます。主からいつくしみを頂いたので私たちは他者とそれを分かち合うことができますでしょう。

溢れるほどいつくしみのお恵みを頂いた特別聖年を、私たちは教皇フランシスと共に祝いました。

「力強く皆を包む風のように、主の善といつくしみが世界中に注がれました。私たちはずーっとこの神の眼差しを経験し、心に沁み込ませたので、このいつくしみを感じなかった人はいないでしょう。私たちの生活は変化します。」

(特別聖年を終わるにあたって出された教皇フランシスの手紙 *Misericordia et Misera* 4 より)



今年のクリスマス・カードは、神がお創りになったすべてのものが互いに関わり繋がっているという喜びに私たちを招きます。マリアは宇宙と創造物の前で、幼子イエスを紹介します。イエスは宇宙全体の不思議さと単純さを抱擁しようと手を伸ばします。単純さのシンボルであるマーガレットの花は、私たち会員や友人の皆さんに親しみのあるものですし、校章に書いてあるモットーを思い起こさせてくれます。「徳においては純真に、義務においては堅実に」この言葉は世界のあちこちに存在する私たちの学校で、今でも使われています。

人間関係、心を開いていること、そして対話などはクリスマスの中心テーマで、教皇フランシスの心に近いものです。教皇は私たちに訴えます：「対話、対話、対話」と。対話それ自体は、他者を尊敬する態度から、また他者は何か良いことを話してくれると信じることから生まれます。人間のいのちや人間関係において物事がどんなに複雑になったとしても、変わるのだと信じています。人々の救い主、メシアは来ました。この幼子を通して智慧と理解、導きと勇気、識別と聖性が創造物の上に注がれ、平和と和解へと導いていきます。人間だけでなく、動物や昆虫、植物の世界を含むすべての創造物が調和のとれた実りをもたらします。

最近のニュースには家族のイメージがありました。男、女そして子ども、ロバと荷馬車を引いてシリアの道を進む家族のイメージがあります。それはマリアとイエスを乗せたロバを率いるヨゼフを思い起こさせてくれます。ここ数年、戦争や欠乏から逃れて移動する人々の数が劇的に増加しているからです。



このように移動せざるを得ない人々は、自分たちがどこに向かっているのか、誰が自分たちを迎えてくれるのか、まったくわからずに歩き続けます。世界の国々、特にヨーロッパでは、より良い生活を求めて人々は海岸に辿りつきます。移民は誰でも希望を抱いて旅します。かつてマリア、ヨゼフそして幼子イエスが持っていたあの希望を、現代の移民も抱き続けることが出来るために何が出来るか、私たちは個人としても共同体としても問われています。私たちがまことに人々を迎える共同体になりたいなら、次のように問いかけてみましょう。

「排斥されているのは誰でしょうか？」



クリスマスは新しい時代の夜明けです。クリスマスは貧困、死、暗闇のただ中にある「飼い葉おけ」に生まれた弱く、脆い幼子と共に始まる夜明けです。この幼子は私たちの間に来るよう定められていました。しかも最も暗く、込み入っていて、みすぼらしく、誰も行きたがらないような場所で生まれるように。

私たちがこのとても小さく、弱々しい幼子、平和の君に出会うのは他でもない「飼い葉おけ」においてです。暴力、怖れ、猜疑心などによって引き裂かれた世界に平和の君がきます。私たち自身の弱さ、人間性、そして内面の静けさを抱えて「飼い葉おけ」に行きましょう。クリスマスの外の静けさは私たちの内に静寂を造り出すよう招いてくれます。神の優しさの幾ばくかを体験できるのは、私たちの心に静かなスペースを見つけたときです。心の部屋に入っていきます。そのとき日常の世話や心配ごとゆえに、また世界に起こっている終わりのない暴力ゆえに、そしてよりよい生活を求め続けて旅している何万という移住者たちの希望の見えない状況ゆえに、自分たちが消耗しきって、疲れていると感じるにちがいありません。しかし、私たちはこのような時にも、なお神の愛と優しさを信じ、私たちと共にいてくださるといふ神の約束を信じています。こうして私たちと共にいてくださる神、幼子エマヌエルを私たちはお迎えします。

クリスマスの招き、それは私たちのところに来てくださる主が、私たちを神の方へ引き寄せたいと望んでおられるということです。神は私たち一人一人を自分たちが想像する以上に愛

して下さっています。神の目に私たちは美しいのです。私たち自身ではそう思えなくても、神は私たちを澄んだ目でみてくださいます。天の父から私たちがいただいている魂の深みにおいて、神は私たちを眺めてくださいます。

「私は、自分自身をも含めて、ひとりひとりの他者を神が見ておられるように見ているだろうか？」

クリスマスは、私たちを「飼い葉おけ」に連れ戻してくれます。それは今までどうであったかに気づき、あらゆる物は持続しないと自覚しつつ、いのちの充満に向かって成長し、学びつつ生きるためです。「飼い葉おけ」を眺めていると愛でいっぱいになった神の謙遜が人となったことが分かります。私たちが神の威厳に圧倒されず、神の愛に引き寄せられるために、神は貧しさの中で私たちの所に来てくださいます。

私たちひとりひとりの中に、再び生まれようと待っている幼子があります。幼子キリストが差し出すそのいのちを探しているすべての人々の中に生まれます。クリスマスは子どものためだけではありません。クリスマスは、諦めずに古いものを捨てる人のため、人生を毎日、目的をもって日々新たにしようとする人のため、今日と明日を新しい可能性でいっぱいにするために、昨日を捨てられる人のためです。またクリスマスは年齢に関係なく、喜びと活力をもって生きる人のためです。クリスマスは終ることのない祝宴です。クリスマスは変化を祝う時。人間らしい喜びと充実に向かって、もう一度旅を始めるようにと招きます。

「私にとって今年、クリスマスのメッセージは何ですか？」

私たち皆の上に、特に誰よりもチャンスの少ない人の上に降誕祭の祝福がありますように。鐘が鳴り、「飼い葉おけ」を見ると、キリストがすべての人、特に社会から排斥されている、無一物だ、独りぼっちだと感じている人の心に生まれるということを思い起こしましょう

「今私が生きている場において、助けを必要としている人々に私はどのように手を差し伸べることが出来るだろうか？」

私たちと共にいて下さる神、エマヌエルに心を開きましょう、そして彼の招きに応えましょう。魂のいのちが赦しと悔い改めのお恵みと共に私たちの内に息づき、また新しい心、新しい希望、新しい愛をもって前進させてくださるお恵みを頂けますように。

公子、マリア、ノーリーン、と共に心からクリスマスのお祝いを申し上げます。

